

医薬保健学総合研究科 保健学専攻

【授与する学位】 修士（保健学）

大学（大学院）の目的
<p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>

学類（研究科）の教育研究上の目的
<p>医薬保健学総合研究科は、医学、薬学及び保健学の教育、研究及び診療を通して、地域貢献、世界への情報発信並びに優秀な高度医療人、研究者及び専門的職業人を養成及び輩出することを目的とする。</p> <p>博士課程保健学専攻は、21世紀の保健学を先導する知の創成と新しい保健学の学問拠点形成を推進し、健全な保健、医療及び福祉の発展に寄与する人材を養成することを目的とする。</p> <p>博士前期課程保健学専攻は、看護科学、医療科学及びリハビリテーション科学の基盤を究め、保健学を臨地及び学際的に推進し、課題探求能力に優れた全人的高度専門医療人を養成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学受入れに関する基本的考え方（前文）】
<p>本学医薬保健学総合研究科保健学専攻は、研究を推進できる医療従事者を育成することが社会から期待されている。そうした人材を育成するために、本保健学専攻では、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、修士論文の審査又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格し、次のような目標を達成した者に、保健学（修士）の学位を授与する。なお、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査は、大学院学則第28条第2項に規定する試験及び審査に代えることがある。</p>	<p>・看護科学、医療科学、リハビリテーション科学における高度専門職業人の養成と、博士後期課程との一貫教育により保健学における教育者・研究者の育成が目標である。</p> <p>・保健学に関する豊かで幅広い学識と問題解決能力を有する高度専門医療人の育成を目指す。</p> <p>・看護科学領域、医療科学領域、リハビリテーション科学領域における教育者・研究者の育成を目指すとともに、高度化、多様化した保健・医療・福祉を支える高度で知的な素養のある医・保健学に関する豊かで幅広い学識と問題解決能力を有する高度専門医療人を育成する。</p> <p>【看護科学領域】 看護の主要概念や関連理論などを適切に活用し、現代社会の変化を鋭敏に捉え、かつ各教育研究分野における国内外の研究の動向をふまえながら、人々の健康に関する課題の探求とその解決に向けた研究を遂行できる能力を養う。それにより、人々の健康増進と、看護の質の向上、看護学の発展に寄与できる人材の育成を目指す。</p> <p>【医療科学領域】 医療画像技術・放射線治療技術と生体情報計測・検査技術の確立・発展を可能とする高度医療専門職、教育者、研究者を育成する。量子医療技術学講座では、医療画像技術及び放射線治療技術における高度な知識と幅広い視野で問題解決可能な指導的人材を輩出する。病態検査学講座では、組織・細胞・生体分子を対象とする臨床検査技術、及び工医学手法を融合した生体情報計測・検査技術について高度な知識と幅広い視野で問題解決可能な指導的人材を輩出する。</p> <p>【リハビリテーション科学領域】 特論、演習等の専門科目、課題研究においては、高度な専門知識・技能を修得するとともに、課題解決への思考の展開と解決に至る課程を経験させる。また研究課題の国際的動向を推敲し、国際学会などへの参加機会を推進することでグローバルな視野を深める。さらに、理学療法及び作業療法の両分野の専門性を通して、地域医療を牽引するリーダーとしての素養を育む。</p>	<p>【看護科学領域】 看護職としてより高度な専門性を修得することを基本目標とします。特に、看護研究とは何かを、研究計画の立案、研究の遂行を通して、自ら体得できる人材を育てることを目的とします。</p> <p>【医療科学領域】 生体情報を扱う医療画像技術、放射線治療技術、組織・細胞・生体分子を対象とする臨床検査技術、及び工医学手法を融合した生体情報計測・検査技術を対象とし、先端的で独創的な高度医療専門職、教育者、研究者を育成し、「医療科学」の確立・発展を目指しています。</p> <p>【リハビリテーション科学領域】 理学療法士と作業療法士の需要の増大に対して、より高度な専門職としての発展をリードし、効果の基礎と根拠を示す研究あるいは治療技術の開発に携わる人材の育成を目標としています。</p>
【学生が身に付けるべき資質・能力】	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
<p>1. 保健学に関する幅広い豊かな学識・高度専門保健医療人としての倫理観と責任感</p> <p>2. 専門分野における高度な知識および実践能力</p> <p>3. 専門分野の研究基礎力・国際的視座をもった課題解決能力</p> <p>4. 学会および論文発表を通し、自らの研究成果を発信する能力</p>	<p>保健学共通科目、領域共通科目を必修とし、他分野の科目も履修した上で、専門分野の科目と課題研究により教育課程を実施する。</p> <p>【看護科学領域】 看護科学領域共通科目では、看護の主要概念や関連理論、看護研究方法論等を体系的に学ぶ。また、各教育研究分野の特論、演習の講義・討議を通じて、国内外の研究の動向や課題を多角的に捉え探求する能力を養うことにより、研究領域に関する理解を深め視野を広げる。さらに、課題研究では一連の研究過程を通して各分野の発展に貢献する修士論文の作成を課す。</p> <p>【医療科学領域】 医療科学に関する各研究分野の特論や演習での教育指導により論理的思考力と実践力を養う。量子医療技術学講座では、各専門分野における国際学術集会への参加や発表を推奨し、研究のまとめ方や発表方法を修得させるとともに研究に対する意欲を高める。病態検査学講座は分子生物検査学と腫瘍検査学の教育研究分野からなり、特論・演習・課題研究により研究領域に理解を深め、視野を広げつつ研究手法と発表方法を修得させる。</p> <p>【リハビリテーション科学領域】 特論等の講義形式では、基本的な知識を整理して丁寧に説明し、発展的な内容では研究の背景等を説明し、知的好奇心と学修意欲を高める。研究課題等のゼミ形式では、研究課題の経過報告及び文献抄読を通して、当該研究領域に関する質疑、議論を重ねて理解を深め国際的視野を広げる。</p> <p>【学修成果の評価】 (1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。 (2) 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び最終試験を行う。なお、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査の審査は、大学院学則第28条第2項に規定する試験及び審査に代えることがある。</p>	<p>【看護科学領域】 ・看護学の研究の基礎となる学問領域を学びたい人。 ・博士後期課程に進みたい人。</p> <p>【医療科学領域】 ・「医療科学」における基礎的及び臨床的な知識獲得に真摯でリーダーとなるべき素養を備えた人。 ・指導的役割を担う教育者、研究者及び専門技術者となりうる意欲あふれた人。 ・新たな医療環境情勢に適応できる柔軟性を備えた人。</p> <p>【リハビリテーション科学領域】 運動器障害、中枢神経及び高次脳機能障害などの解析、評価、治療、回復と自立のための、臨床技術と基礎的解析学の研究を実施する過程でリハビリテーション科学の発展に寄与したいと願う学生を求めています。</p> <p>【選抜の基本方針】</p> <p>【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</p>